

【JBIB】16周年記念シンポジウム

富士通グループの Natureへの取組み

富士通株式会社



写真提供：Hutan Harapan

© 2022 Fujitsu Limited
© 2024 Fujitsu Limited

パーパス

FUJITSU

Our Purpose

わたしたちのパーパスは、
イノベーションによって社会に
信頼をもたらし、世界をより
持続可能にしていくことです。





必要不可欠な貢献分野

地球環境問題の解決 Planet

人と自然が共存・共栄し、
地球の未来を共に創る

気候変動（カーボンニュートラル）

資源循環（サーキュラーエコノミー）

自然共生（生物多様性の保全）

マテリアリティへのアプローチ

1. お客様・社会への事業展開：Fujitsu Uvance
2. 社内取組み：自然共生に係る目標設定、取組み実行



お客様・社会への事業展開

FUJITSU

□ オフリングメニュー・事例



OT Digitalization >

工場・工程のボトルネックを定量的に把握し、真因の早期特定による生産性向上や不良率低減を支援します。また、安心・安全なデジタルファクトリークラウド基盤により、セキュアなOT資産の管理とデータドリブンな意思決定を実現します。



ESG Strategy - GHG visualization and reduction >

富士通のGHG visualization and reductionは、リスクや課題点を可視化・分析するサービスを提供し、業界を超えたサステナビリティ事業の立ち上げに向けた戦略策定を支援します。



Engineering Accelerator >

設計ノウハウ、高度シミュレーション、データ活用をお客様の設計プロセスに迅速かつ柔軟に適用し、ビジネスアジリティを向上させます。



Resilient Infrastructure >

エネルギー供給や生活環境をスマート化してレジリエントかつ環境に優しい社会インフラを実現



EV-Shift >

EVの導入や運用の課題を解消、効率的バッテリーサイクルと社会維持のためのEV活用を推進、災害に強い街づくりを実現



1. お客様・社会への事業展開

5

© 2024 Fujitsu Limited

あるべき姿、中短期目標

FUJITSU

□ ネイチャーポジティブの達成に向け、昆明・モントリオール生物多様性枠組に沿った、2050年あるべき姿と2030年中期目標、2025年短期目標を策定

あるべき姿 (2050年)	持続可能な社会の基盤である『自然・生物多様性』をデジタル技術により十分回復させ、 自然と共生する世界 を実現する。
中期目標 (2030年)	サプライチェーンを含む自社の企業活動の領域において、生物多様性への 負の影響 を 25%以上低減 する（基準年度：2020年）。加えて、生物多様性への 正の影響 を増加させる活動を推進する。
短期目標 (2025年)	サプライチェーンを含む自社の企業活動の領域において、生物多様性への 負の影響 を 12.5%以上低減 する（基準年度：2020年）。加えて、生物多様性への 正の影響 を増加させる活動を推進する。 (第11期環境行動計画)

2. 社内取組み

6

© 2024 Fujitsu Limited

生物多様性への負の影響を低減させる活動

□ 生物多様性への負の影響の評価指標として「エコロジカル・フットプリント（EF）」を選定

- ① 昆明・モンテリオール生物多様性枠組の目標15の指標として、生物多様性条約第24回科学技術助言補助機関会合（SBSTTA24）から提案された、科学的知見から選定された指標。

CO-CHAIRS' SUMMARY AND PROPOSED LIST OF INDICATORS FOR CONSIDERATION IN DEVELOPING THE MONITORING FRAMEWORK
FOR THE POST-2020 GLOBAL BIODIVERSITY FRAMEWORK

Goal/Milestone/Target ^a	Headline indicator	Summary of the assessment	Component indicator	Complementary indicators
Target 15. All businesses (public and private, large, medium and small) assess and report on their dependencies and impacts on biodiversity, from local to global, and progressively reduce negative impacts, by at least half and increase positive impacts, reducing biodiversity-related risks to businesses and moving towards the full sustainability of extraction and production practices, sourcing and supply chains, and use and disposal.	15.0.1 [Number of companies assessing and reporting on their][Quantified volumes of] Dependencies [and] impacts[, risks and opportunities] of businesses on biodiversity [and related human rights]	Relevance: Green Nationally feasible: Yellow Globally feasible with national disaggregation: Yellow Readiness: Red Summary: Relevant, not fully operational Most Parties felt that an indicator on dependencies and impacts was relevant; however, such an indicator would need to be further defined and elaborated. Parties suggested a number of adjustments to the indicator and/or alternative indicators	Tbe (will align with the Task Force for Nature-related Financial Disclosures) 15.4.1 Ecological footprint 15.4.2 Recycling rate	t15.1. CO ₂ emission per unit of value added (SDG indicator 9.4.1) t15.2. Change in water-use efficiency over time (SDG indicator 6.4.1)

出典：CBD/SBSTTA/REC/24/2 27 March 2022

2. 社内取組み

7

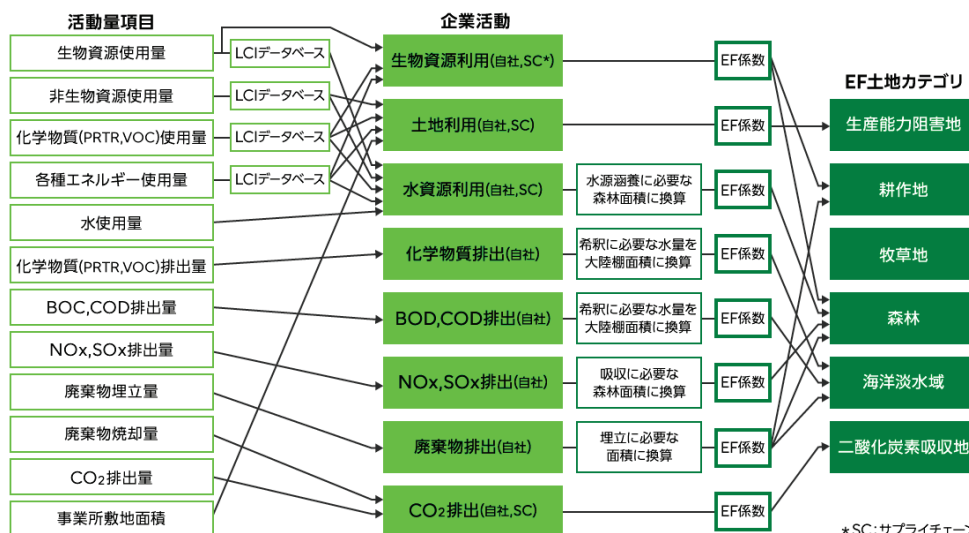
© 2024 Fujitsu Limited

生物多様性への負の影響を低減させる活動

□ 生物多様性への負の影響の評価指標として「エコロジカル・フットプリント（EF）」を選定

- ② 企業活動全体を包括的に評価可能な指標。

富士通Gにおけるエコロジカル・フットプリント（EF）による企業活動の統合的評価



2. 社内取組み

8

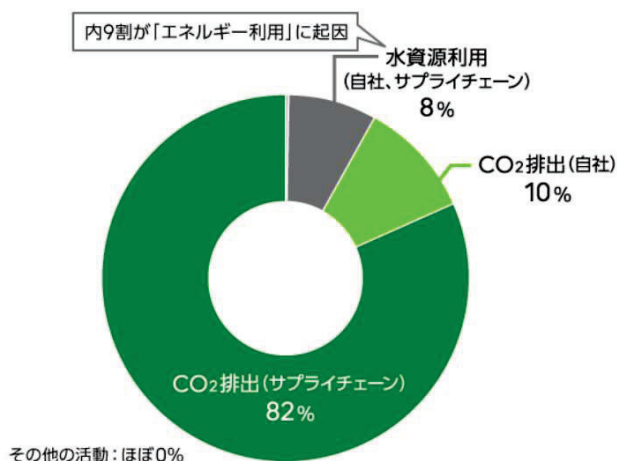
© 2024 Fujitsu Limited

生物多様性への負の影響を低減させる活動

□ エコロジカル・フットプリント評価における重大な負の影響要因の特定

- ◆ 富士通グループの企業活動における、生物多様性への負の影響要因は、「CO₂排出」と「エネルギー利用」で要因の99%を占めることを特定。

富士通GにおけるEF算定結果（2020年度）－企業活動別割合－



富士通グループの場合、生物多様性への負の影響を低減するためには、気候変動対策が有効

2. 社内取組み

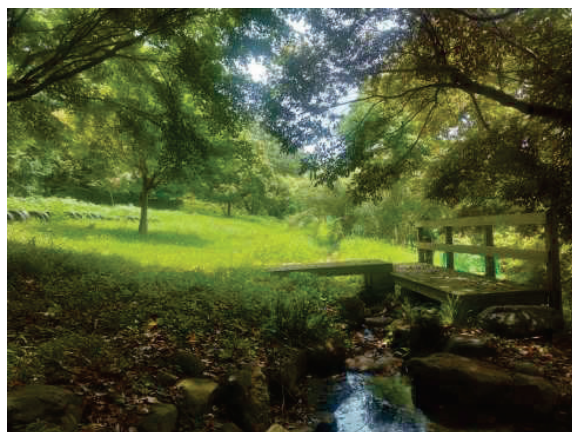
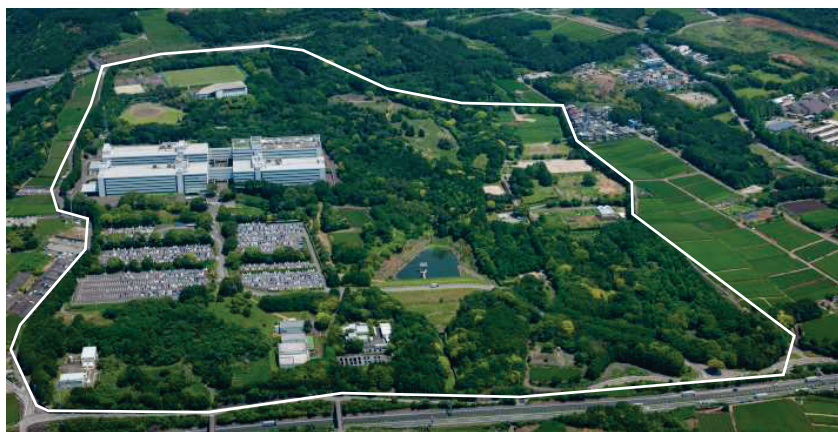
9

© 2024 Fujitsu Limited

生物多様性への正の影響を増加させる活動

□ 自然共生サイト認定（環境省）を取得し、30by30の達成に貢献

- ◆ 富士通沼津工場は、環境省の「自然共生サイト」に認定。
- ◆ 約53haの工場敷地の80%弱を工場緑地が占め、地域の貴重な生物多様性を育む場となっている。自然環境保全、景観整備、自然環境を学ぶ場の提供を目的とした緑地管理を実施。



2. 社内取組み

10

© 2024 Fujitsu Limited

生物多様性への正の影響を増加させる活動

FUJITSU

□ 資金、技術、人材などの提供により生物多様性保全を支援

① シマフクロウの音声認識プロジェクト（日本）

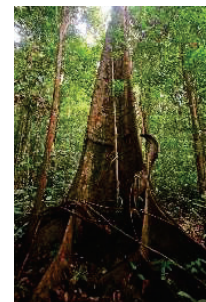
- 絶滅危惧種であるシマフクロウの生息域調査のため、音声認識ソフトウェアを提供。
- 鳴き声の録音データ解析において、自動抽出が可能となり、解析時間は大幅に削減。
- 効率的な調査および調査地域・調査頻度の拡大に貢献。



シマフクロウ（写真提供：日本野鳥の会）

② 熱帯雨林ハラパンの森の保全支援（インドネシア）

- インドネシア・スマトラ島の熱帯雨林「ハラパンの森（Forest of Hope）：約10万ha」における森林保全活動への支援を継続的に実施。
- 喫緊の課題である森林火災や違法伐採へ対処するための森林パトロールに、デジタル技術を導入することで、森林パトロールの効率化および効果の向上を支援。
- 森林破壊への適切な対応が期待でき、森林保全に貢献。



Forests of Hope site: Hutan Harapan
(写真提供：Hutan Harapan)

© 2024 Fujitsu Limited

2. 社内取組み

11

TNFDへの対応

FUJITSU

□ 自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）Adopterに登録

- ◆ TNFDの主旨に賛同し、2023年12月にTNFD Adopterに登録。
- ◆ スイス・ダボスで開催される世界経済フォーラム年次総会でAdopterとして公表。
- ◆ 今後、LEAPアプローチに沿った分析・評価を実施。
- ◆ その結果を、TNFDフレームワークの開示推奨項目に沿って、2024年以降開示し、開示内容を順次更新していく予定。



12

© 2024 Fujitsu Limited

Thank you



FUJITSU